ザ・紺碧

WASEDA UNIV. ALUMNI
小金井稲門会
KOGANEI TOMONKAI

発　行:小金井稲門会
事務局:小金井市中町2-13-7
石井嗣剛方
電　話:042-384-8166
F A X:042-304-8166

目次:1～5P「特集」 6P「女子会リレーエッセイ」 7P「うちの部会はここが魅力です」 8P「これからの主な予定」

特集 「現役世代のココロ」
定年退職組とちょっと違う現役世代の座談会

最近、小金井稲門会に現役世代の入会が増えている。活性化のひとつとして好ましい現象だ。今までの定年退職組とはなにが違うのか。どういうきっかけで入ったのか、入った後の印象は？

今回の特集は、現役世代たちの元気な座談会です。

（左から伊集院晶さん、坂本光正さん、遠藤圭司さん、鮎川志津子さん、金子正和さん）

――それでは、「現役世代のココロ」と題して、座談会を始めさせていただきます。

今回、ご参加いただくメンバーは、鮎川志津子さん(87年・商卒)、伊集院晶さん(89年・商卒)、坂本光正さん(81年・法卒)です。

撮影・記録は、「ザ・紺碧」編集委員の金子正和さん(73年・政経卒)。聞き手・進行は同じく編集委員の私、遠藤圭司(02年・社研卒)が務めさせていただきます。よろしくお願いします。

早速ですが、まずは入会のきっかけ、動機からうかがえますか？

（2ページに続く）

◆入会のきっかけ・動機は・・・

鮎川　入会したきっかけは、以前ベルギーのブリュッセルに住んでいた時、稲門会がなく、うらやましく思っていたので、小金井に引っ越して来た時に稲門会を探し、自分から入会させていただきました。

伊集院　僕は去年の11月に入ってまだ半年ほど。10月に卒業して25年ぶりのホームカミングデーがあって、久しぶりに仲間たちと会って、早稲田っていいなと思いました。帰ってから住んでいる小金井稲門会のホームページを調べたら、楽しそうに活発に運営されている印象を受けました。入会希望の連絡をしたら、すぐに返信が来て、感激しました。早速、11月の総会に参加させていただき、入会まで一気に進んだ経緯がありました。

坂本　私は家に案内が来て、入会しました。福岡の出身なんですけど、以前に高校のOB会の幹事をやらされたり、時々仲間と会う中でいいものだと感じていました。入会すると、イベントがいろいろあって、今までワイン会、ツアーグルメに参加しました。バーベキュー（以下、BBQ）もやりましたけど、カミさんが好きなので、嫁さん孝行みたいなものでいろいろ行っています。入った頃に比べて現役の人がだいぶ増えて心強いです。

――去年、活性化推進の取り組みで、新しい方々に入会を働きかけました。伊集院さん、坂本さんのお二人は、その結果、ということですね。

坂本　とりあえず入ってみようというのが最初の感覚だったんですね。行くと優しくしていただいて、ハマってしまうというか。

――「お試し」(注)で何回か参加すると雰囲気がわかってきますし、参加するにつれ関係ができてくるというのはありますよね。

(注・昨年より、新入会員に会を知ってもらうため、入会1年目は会費免除の制度ができた)

鮎川　そうですよね。入会後、初めてイベントに参加する時、知っている方がいらっしゃらなかったので、不安がありましたが、皆様がとても親切でいらして、沢山のお気遣いをいただいて、有難く思いました。坂本さんが仰ったことは、とてもよくわかります。

（いつもにこやかな鮎川さん）

◆実際に活動や部会に参加してみて・・・

――実際に入ってどんな活動をされているか、入ってみて、どんな感想を？

鮎川　暑気払い、新春交流会、スポーツ応援会に何度か参加させていただきました。ゴルフ部会の皆様もお優しくて、下手な私をもコンペにお誘い下さるので、数えるほどですが、参加させていただいております。仕事が土日も入ってしまうので、楽しそうなBBQ、ワイン、ツアーグルメも行きたいと思いながら、一度も参加できていないことが残念です。
幹事としては、自宅で作業できるホームページ管理を担当させていただいています。

伊集院　入会してあまり経っていないので、参加していると言えないんですけど、総会、新春交流会、ワインの会に2回ほど、あとはBBQくらいですけど、接点がある方はまだ一部なので、顔と名前が一致しない方がいっぱ

いいるというのが現状です。

坂本　ワインの会には、ほぼ出ています。毎回テーマがありますが、仕事で以前、南アフリカにいた関係で、現地のワイン紹介を担当したのが、皆さんにお披露目できるいい機会でした。カミさんが楽しみにしているので、ツアーグルメもだいたい出ています。早稲田サロンもほぼ都合がつく限り出ています。

講師もやらせていただきました。頻繁に出ているので、皆さんに名前を覚えてもらってます。BBQは担当幹事ですが、秋も開催予定です。

鮎川　BBQは大盛況だったようですね。

――BBQを見ても、3世代にわたって参加いただける会は珍しいですよね。皆さん、稲門は一つのきっかけですが、もともとご近所という縁があるわけですから、幅広い世代の交流が図れることは、興味深い活動だと思います。実際、入ってみたら、なにか印象が変わったとかいう点はありますか。

坂本　どこの同窓会も同じような感じだと思いますが、定年ですごく自由になった人、元気な人たちが入っているイメージがあるじゃないですか。私の高校の同窓会は、まさにその通りで、10年前に入ると一番下っ端で、会の運営を担当したりする中で、次の年から堂々と出られるとか、そんな感じなんですよ。お歴々が並んで、席が決まってたりするわけですよ。非常に尊敬する大先輩なんだけど、小金井稲門会はそんなにタテ社会ではないですよね。非常にフリーというか。他では未だに上下関係すごい体育会系なところもありますよね。

伊集院　もともと学生の頃からの知り合いだと、それが続いたりするんでしょうけど、ある程度、経って初対面で集まっているんで、縛られた関係でなくやれるんでしょうね。

――いろいろな年代がいらっしゃる中で、気軽に接していただけるから、居心地がいいと続けてみようという気にもなりますよね。

伊集院　はじめは稲門会っていうのがどういうところか、全くイメージが湧かなかったですね。校友会に入っていて、「早稲田学報」が送られてきて、地域の稲門会の存在や活動の様子をなんとなくは知っていましたが、どういう人が集まって、どういう世界があるかイメージが湧かなかったです。恐る恐るのぞいてみたところがあったんで……。
坂本さんは福岡のご出身とのことですが、学生時代から地元の稲門会とは接点があったんですか？

坂本　いや、ないですね。ぼくは福岡・飯塚の出身で地元にも稲門会があると最近わかったんですが、地元に戻ったら、定年後、入るようなイメージでしょうね。三田会を知ってる訳ではないけど、漏れ聞く話によると、三田会とは違う活動形式ですよね。三田会は、卒業したら全員が入るみたいな、企業内の会もあったりするみたいですね。

（自ら小金井稲門会へ。伊集院さん）

鮎川　職域稲門会はあるみたいですね。

坂本　ありますね。仕事の関係で行ったことありますけど、会のあり方は、いろいろだと感じました。

――職域稲門会は、もっぱら仕事関係で同業種の交流が主ですけど、地域の稲門会は、日頃、職場と家の往復になりがちな現役世代にとっては、仕事と離れて、ご近所の皆さんと交流したいとか、余暇をリフレッシュしたいとかが入るきっかけになるんでしょうね。

坂本　仕事と関係ないフリーの立場での同窓会は、気分が楽ですよね。それぞれ持ち味があると思います。

――そういう意味では、職域稲門会とは目的も役割も変わってきますね。地域の活動に参加してみたいと思う人が、稲門会の存在を知ってなにをやっているかがわかり、近所の人から誘われれば参加してみようかと。
そこに踏み出してもらえるかどうかですよね。

◆これから取り組んでみたいこと・・・

――今後の抱負とか、会に望むこと、こういう活動をしてみたいなど、お聞かせください。

鮎川　入会した頃は女性の参加者がほとんどいらっしゃいませんでした。ここ数年、伊藤さん、國分さんのご尽力で、会員の奥さまにも働きかけていただいて、ご夫婦でいらっしゃる方が増えて、いい形に流れてきたなと思うので、この流れが続いていけばいいなと思います。
あともう一つ、5月の最終水曜日に市でチャレンジデー（注）があったのですが、来年のチャレンジデーに稲門会として、なにか企画があればうれしいです。
（注：市域内で１５分以上継続して何らかの運動やスポーツをした方の参加率を人口規模が同規模の自治体と競い合うイベント）

――あれは、市民が自発的に運動した記録を集めているんですか？

鮎川　小金井市内で運動した人を集計しています。市を挙げて行っています。来年のチャレンジデーの日（5月最終水曜日）、稲門会で集まってスポーツするとかできればいいなと思っています。

――今までも、市には、市民公開講座でも後援いただいているんですよね。タイアップできる企画を増やしていけると面白いですよ。なんといっても、地域密着の会ですからね。伊集院さんは？

伊集院　いろいろ顔を出させていただいて、まだ活動を把握したいという段階です。抱負ではないですけど、今までも部会が立ち上がって、やっていく印象を持っていますけど、なにかスポットで自然発生的に企画が上がって、やっていければと思っています。鮎川さんがおっしゃったように、定例でなくても、参加したりとかできるものが日常的に生まれるようになると、より活発化するんじゃないでしょうか。会を立ち上げるというと、大変でしょうから……。

――部会の幹事を引き受けるのが負担だとすれば、例えばBBQのようにスポットでやれると現役世代も仕事と両立できるかもしれませんね。

伊集院　定例にしなくてもいい気もしますよね。やらなければならないという形になると負担を感じてしまいますから……。あとは、自分も10代の子どもが3人いる子育て世代な

（BBQ幹事の坂本さん）

ので、休日は家族サービスを要望される世代でもあります。BBQみたいな感じで、家族もぜひ来てほしいとか言われると、一緒に行こうよという来やすさもあったりします。子育て世代の休日の過ごし方にも合う形で働きかけをしていくと、より現役世代の会員の獲得にもつながっていくんじゃないでしょうか。

――そういう意味では、BBQは幅広い世代が参加するきっかけになりました。その流れが続くような取り組みが必要ですよね。

伊集院　昨年、東伏見で「早稲田スポーツフェスタ」があって、子どもを連れて行って面白かったんですよ。いろんな部活が参加して、野球、バスケ、射撃などいろいろな早稲田スポーツを体験できるというのがあって。ああいうのに小さい子どもが参加すると、将来ワセダに入りたいなとか気持ちが膨らんでくる気がするんですよ。例えば、このようなものに稲門会が絡んでいっても面白いですね。

坂本　参加がより活発になればいいなと思ってるんですが、意外に最初、勇気がいると思うんですよ。最初のハードルを取ってあげると来やすくなるんじゃないでしょうか。

　奥さんに限らず、家族の理解がないと頻繁に家を空けるわけにはいかない家庭も多いでしょうから、家族が出られるようなイベントをもう少し増やしていければいいんじゃないかと思います。あとは、現役世代はお金がかかるようなイベントは頻繁に誘われると大変な事情もあるでしょうから、参加しやすいリーズナブルなイベントを考えてやっていけたらいいですね。

――仕事の合間の時間はどうしても限られますので、現役世代が負担にならない範囲で家族サービスができるイベントがあれば、参加してもらいやすいというのは確かにありますよね。

鮎川　スマホの普及に伴って、ホームページのスマホ専用サイトを創ったり、ツイッターで発信したりしてもいいですね。運用にあたってのルール作りが必要なのかと思いますが、例えば、イベントへの参加が遅れたりする際の連絡とか、BBQなど雨天実施や中止などの連絡が取れたら、便利かと思っているのですが。

坂本　年配の人にはついていけないかもしれないという心配もありますね。そういう意味では、紙媒体と両方必要と思いますが、FAXの人もいるし分けて考えていかないといけないと思います。

（聞き手の遠藤圭司さん）

――そうですね。今後の取り組みの可能性も含めて、様々な形で活性化のヒントもいただきましたので、現役世代の声として活かしていけたらと思います。今日は、どうもありがとうございました。

～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～～

《聞き手から》

　昨年より活性化推進の取り組みが進められ、会員が大幅に増えた小金井稲門会。今回、現役世代に焦点を当て、率直な感想を聞くことができた。会ある限り、活性化は永遠のテーマだが、組織は一人ひとりの会員から成り立っている。会員の方に会への思いをうかがい、闊達に語り合う機会が得られたことはとても素晴らしかった。
改めて感謝申し上げたい。

（遠藤）

女子会リレーエッセイ

新たな世界が広がった小金井稲門会

今中 律子
(1974年 文学部卒)

小金井に住み始めて24年。2人の息子の子育てに最適と考えてのことでした。いずれも社会人となり、昨年には孫娘もさずかりました。

早稲田大学には夫婦ともども、次男も今春まで理工大学院にお世話になりながら、最近まで稲門会とは無関係に過ごしてまいりました。

そんな私たちでしたが、昨年の春、主人がある方のすすめで入会することに。その際、私も稲門であることを耳にされた同じ前原町にお住まいの國分さんから、女子会に誘っていただいたことが入会のきっかけだったと記憶しています。

私は、有明海に面する福岡県柳川市出身です。

大隈重信公の出身地、佐賀とは田舎のローカル電車に揺られて1時間の距離。また、詩人、北原白秋とは小学校から高校までの同窓にあたります。

そんな地域の風土としては、東京の私学といえば早稲田大学しか思い浮かばない環境でした。

また、入学以降もこれまで同じ九州の田舎町から稲門をたたいた、かつての幼馴染みから、高校の同級生、先輩、後輩など多くの早稲田人との交流の中にいました。小金井に長年住みながら、この年まで小金井稲門会に関わることがなかったのは、あえて言い訳を許していただけるとしたらそんなことになるかもしれません。

遅ればせながら1年前に入会させていただいた私ではありますが、最近ではすっかりご近所の顔なじみとして多くの皆様と親しくさせていただいています。これも縁というものでしょうか、それまでのことを考えるとなにやら不思議な思いがしてまいります。

特に最近多くかかわらせていただいているのが、「ワインの会」と「ブリッジ同好会」です。また、稲門会がきっかけで太極拳も始めました。

いずれも超初心者の私ですが、回をかさねるごとにその面白さ、奥深さを発見し、丁寧な指導と素敵なお仲間のおかげで楽しい時間を過ごさせていただいております。

５月のバーベキュー会には家族みんなで（長男は仕事でしたが）参加することができ、家族にとっても新しい体験でとてもよかったと思いました。

(左から今中京平さん、律子さん、次男の修平さん)

稲門会の皆様とは、これからも家族一同長くお付き合いさせていただくことになることと思います。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

うちの部会はここが魅力です

ブリッジ同好会 ～40年続けてもますます魅力的!ペアで戦う戦略的かつ知的なゲーム～

「コントラクトブリッジ」というトランプのゲームをご存じでしょうか。

日本ではあまり知られていませんが、ポーカー、ジン・ラミーと並ぶ世界３大カードゲームの一つで、約130ヶ国、1億人以上の人に愛されている人気のゲームです。

今年１月、小金井稲門会にこのゲームの同好会「ブリッジ同好会」が発足しました。

今回は会代表の立松英信さん(1970年・理工学部卒)に、ブリッジの魅力や会結成の経緯、活動状況などをお話しいただきました。

「コントクトブリッジとは、４人で楽しむカード(トランプ)ゲームで、カードゲームのなかでは珍しく、ペアを組んで競い合う、戦略的かつ知的なゲームです。

テーブルに向かい合った対面同士がパートナーを組み、２人で情報交換をしながらゲームを進めます。囲碁、将棋、麻雀などのゲームは個人戦ですが、ブリッジはペアで戦うことがいちばんの魅力だと思います。

強い者同士がパートナーを組んでも必ず勝つとは限りません。パートナーとの呼吸が大事なのです。私はもう４０年以上もゲームを楽しんでいますが、いつも新鮮な喜びがあり、ますます惹かれています」

「イギリスのサンドイッチ伯爵という人物はトランプが大好きで、没頭しすぎて食事がおろそかになってしまった。そこでパンに具をはさんだ食べ物を考案し、これを食べながら、トランプに熱中した。それがサンドイッチの由来であるーーという有名な逸話があります。

そのとき伯爵が夢中でプレイしていたのが、ブリッジの前身であるホイストというゲームです」

「ブリッジと私の縁は、国鉄（現・ＪＲ）の技術研究所に就職した時が始まりです。

当時、研究所ではクラブ活動が盛んで、さまざまな班がありました。たまたまのぞいたブリッジ班でのゲームの白熱ぶりを目のあたりにして、大変興味を持ちました。入門してやっているうちに、少しは腕も上がっていきました。

班内に対外試合（社会人リーグ）向けのチームが結成され、お声が掛かると喜び勇んで出かけたものです。

試合後は必ず反省会があり、上手くいけば、おほめをいただいて乾杯となるのですが、失敗すると、やれ《人の意を解さない奴》だの、やれ《センスの悪い奴》だのと罵声を浴びることになりました。

これもペアゲームだからこそで、今ではなつかしい思い出となっています」

「欧米で紳士淑女が日常的に楽しむブリッジは、小金井稲門会のメンバーにふさわしいゲームだとずっと思っていました。昨年春、賛同してくれる女神（?）が現れて、今年１月に同好会として誕生しました」

（「そう、そうね」と教えているのが立松さん）

「会結成から約半年経ちました。隔週月曜日の夕方、市民交流センターの練習室に十数名が集まります。普段はお菓子をつまみお茶を飲みながら、そして数ヶ月に一度は懇親会で盛り上がりながら、のんびりしたペースで基本ルールを学びつつ、ゲームもどきを楽しんでいます。焦らず時間をかけてルールを覚えれば誰でもマスターできます。

ご興味のある方は、まずは小金井稲門会のホームページをごらんください」

（聞き手　福岡貴子）

小金井稲門会・これからの主な予定

◆**美術作品展**　9月10日（水）～9月15日（月）

＊今年も、小金井市民交流センターの市民ギャラリー（地下1階）で。油彩・水彩・日本画のほか、写真、陶芸、ネオンアートなど様々なジャンルの魅力あふれる作品が楽しめます。作品は8月5日まで募集中。ご希望・お問い合わせは、國分ひろみさんまで。

◇ホームカミングデー　10月19日（日）

＊稲門祭と同時に開催。今年は次の人たちが対象です。1965年卒、1970年卒、1980年卒、1990年卒、2000年卒。

◆**秋のバーベキュー交流会**　11月1日（土）

＊5月31日の「春のバーベキュー交流会」には、過去最高となる43名(会員25名、家族13名、お孫さん5名)が参加しました=写真。

会場となったのは小金井公園。てぶらでバーベキューを楽しめるのがすばらしい。木々の合間を吹き抜ける爽やかな風を受けながら大人の会話を弾ませる、至福の時を過ごした、とのことです。秋も楽しみですね。

◆**定期総会**　11月15日（土）

＊いつものように商工会館で。今年は会長を含む役員改選があります。

◆**ツアーグルメ**　11月24日（振替休日）

■入会されました（順不同）

加藤勝弘さん　緑町4丁目　（1976年・商）

[redacted]

長坂義明さん　東町3丁目　（1974年・政経）
中田　晃さん　梶野町5丁目　（1970年・政経）
村田迪夫さん　東町1丁目　（1970年・政経）
佐藤裕幸さん　西東京市新町3丁目　（1976年・法）
伊東信夫さん　本町1丁目　（1976年・商）

□退会されました（順不同）

池田正明さん　今泉あずささん

編集部から

「子育て世代の休日の過ごし方に合う形で働きかけをしていくと、より現役世代の獲得にもつながるのでは」「家族が出られるようなイベントをもう少し増やしていければ」「ツイッターで発信したりしてもいいですね」――。

様々な提言が出た特集「現役世代のココロ」。会員のみなさまはどうお読みいただいたでしょうか。肩の凝らないイベントを通じて、シニア世代と現役世代の垣根のない交流が広がれば、と思います（佐）

＊題字は國分ひろみさん。デザインと編集協力はサーズデイデザイン（電話042-301-4555）